

縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

133



- 02 巻頭言 (PTA 会長, 学校超) / 環境整備経過報告 (事務室より)
- 04 北信越高等学校 PTA 連合研究大会 / 3 学年 PTA / 地区 PTA
- 05 芸術鑑賞→Pia-no-jaC← 感想文集より
- 06 活躍する縣陵生 (吹奏楽部, 音楽部, かるた部)
- 07 活躍する縣陵生 (インターナショナル部) 中止になった競歩大会
- 08 2017 合唱コンクール
- 10 PTA 研修旅行～金沢大学～
- 12 史上初!2学年普通科台湾修学旅行
- 14 世界に羽ばたく卒業生!
- 16 縣陵 2017 年度 / 編集後記



変化が早くて大きい時代へ

PTA 会長 井口 寿彦



いま、猛烈なスピードで世の中が変わっています。日本の少子化・高齢化は世界に類を見ないほど急速に進展し、人口が減少する時代に入ってきています。ライフサイクルも多様化し、商品のライフサイクルも短くなっています。また、人間の代わりに自動車を操縦してくれる人工知能（AI）の開発など、技術革新の進展も凄まじく、時代の変化のスピードには驚かされることばかりです。

こうした中、文部科学省では新たな価値を創造していく力を育成するために、高大接続改革の取り組みが進められています。高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて①知識・技能の習得、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、といったいわゆる「学力の3要素」を確実に育

成・評価する、三者の一体的な改革を進めることが極めて重要であるとしています。こうした時代、我々はどう対応していったらいいのでしょうか？

「生き残る種というのは、最も強いものでもなければ、最も知能の高いものでもない。変わりゆく環境に最も適応できる種が生き残るのである。」と自然科学者ダーウィンの名言です。今やっていることがいつまでも正しく、上手くいくとは限らないし、順調に行っている時こそ、次の一手を考えて準備を進めておくことが大切かと考えられます。

来年度から本校に「探求的な学び」を推進する自然探求科・国際探求科が設置され、大きな期待が寄せられています。また、普通科においても信州で学び、信州を知り、信州から羽ばたくことを目指す「信州学」への取り組みや海外修学旅行が実施され、グローバル時代に対応できる教育が進められています。ただし、こうした変革を率先して進めていくには、学校現場としても大きな負担が伴い、諸施設の環境整備、教員数の充実などといった教育環境を整えていくことが必要となります。

昨年、本校同窓生の有志を中心とした「県陵の学びを支援する会」が発足され、本校をはじめとする地域の教育へのご支援を行っていただくことになりました。遠くにいても、近くにいても、故郷や母校を大切に思う気持ちには、深く感謝いたすところでございます。ご支援をいただくことで、多少なりともその負担が軽減され、より良い新しい学びが定着することが望まれます。

PTAといたしましても、教育目標の達成のための調査研究、教育的環境の整備充実といった面から、協調していきたいと考えております。また、保護者の立場としましては、先生方や地域の皆様と連携・協働し、学校において求められる様々な課題を乗り越えていくため、これまで以上の取組と意識改革、そして「学び」が必要といえます。変化に対応できるような姿勢を整えておけば、これからの社会を柔軟に渡りきることも、きっと可能となるはずです。

子どもたちが社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、これからもPTA活動に対しまして、ご理解・ご協力の程よろしく願い申し上げます。

おかげ様で、学校の環境整備がこんなに進みました！

生徒用ロッカー (H28.8.19及びH29.8.7) 計377万円

昨年度は2棟、今年度は4棟の老朽化したロッカーを更新しました(計654人分)。更新前には、扉がなくなったり、ゆがんで開かなかったりして使用できないロッカーもあり



ましたが、使用できるようになりました。新しくなって見た目もよくなり、廊下や教室が明るくなりました。

電子黒板(H29.1) 101万円(PTA負担分)

「信州学」をはじめとする生徒の探求的な学びに役立つように、1学年の普通教室に電子黒板を設置しました。4台を買い取り、4台をリースとし、買取分を同窓会と折半で負担したものです。その後、今年度に入ってから、県の負担で2、3学年の教室にも電子黒板が設置されました。本校の先進的な取組が評価されて、とのこと。来年度から始まる「探究科」での学習にも、大いに役立つものと期待されます。

書画カメラ収納キャビネット (H29.10.30) 135万円

電子黒板に図等を投影する書画カメラを収納するためのキャビネットを購入しました。(各普通教室に1台ずつ、計25台)新しく設置された電子黒板は、現在、積極的に授業で活用されていますが、パソコンの画面ばかりでなく、この書画カメラを使用すると、参考図書を開いて映し出すことができ、幅広い使用が可能となっています。



本校の『ユリノキ』見て思う

学校長 永原 経明



本校のプール東側、道路に面して10メートル以上の高さになろうとする大木があります。この木は『ユリノキ』と言います。本校の創立当初からあり、卒業したOBの方々にとっても、思い出深い木です。この『ユリノキ』は毎年、5月頃、とてもきれいな花を咲かせ、また、青々とした葉を茂らせ、見る者に力を与えるかのようです。落葉樹ですので、この冬の時期は、葉は全て落ちてしまい枝がむき出しとなっています。夏頃に見る悠々とした面影は全くありません。しかし、春に向けて、エネルギーを着々と蓄えている。そんな強さを感じさせます。

次の時期に向けて、力をつける”という点において、本校の生徒の姿と重なります。県陵に在学している生徒たちは、3年間の学校生活を通じて、卒業後、人生を力強く歩むことのできる”力”を精一杯つけようとしているのだと思います。

さて、保護者の皆様方のご協力のもと、本年度、学校としても、着実に歩みを進めることができました。この会報でも紹介されておりますが、生徒たちは、日頃の学習活動に加えて、文科系、運動

系のいくつかのクラブで優れた結果を残しております。また、生徒会の活動でも、本校の執行部が中心となって、今年度も、中信地区の各高校の生徒会役員による交流会の企画と運営を行いました。

本年度、生徒の学習環境において改善された点、学習活動の新たな取り組みなどについて、主な事をご説明いたします。

まず、電子黒板、書画カメラの設置です。夏休みをつかって、電子黒板が全ての普通教室と図書館、一部特別教室に入りました。多くは県費負担ですが、同窓会の寄付金、PTA会費のリースの物も若干あります。この電子黒板は、スクリーンに文字を書き込むことができたり、パソコンの画面を映したりすることができます。また、書画カメラは、ノート、教科書をそのままスクリーンに映し出すことができます。生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業をしていく上で、これらの機器は役立つもので、今後、更に有効に活用していきたいと考えております。

その他改善された所は、大体育館の西側に男女更衣室が完成、部室棟（南側）と生徒昇降口の耐震工事が完了、図書館に大型ファンヒーターの設置、トイレの洋式化（10か所）などが主なところですが、課題としては、4棟にトイレがないため、1年生の女子生徒が不自由な状態にあることがあります。また、夏、2棟や研究室が高温になってしまう

ため、エアコンの設置が望まれるということがあります。この件につきましては、1月段階では、理事会レベルで理解を得られているところです。その他、多々ありますが引き続き、改善に努力してきたいと考えております。

次に、学習活動についてです。2学年がこの11月に3泊4日で台湾修学旅行を実施しました。2学年の保護者の皆さまには、事前の説明会の出席、旅行に際しての準備など、様々ご協力をいただきました。改めて、御礼申し上げます。生徒は、台湾と日本の文化の違いを実感し、海外へ行くことの手続きも含め多くを学ぶことができ、本当に行って良かったという感想でした。特に、台湾の高校生との英語での交流は、英語の会話力をつけることの必要性を感じたり、様々な学びの刺激を受けたりしました。これからは、グローバルな視点で物事を考えていく力は必須です。また、文化が異なる方々とも積極的にコミュニケーションをとれる能力も必要となります。今回の旅行が、生徒の今後の学習活動に大いにプラスに発展していくことを期待しているところです。

最後になりましたが、来年度は、自然探究科、国際探究科が加わり、普通科、英語科も含めた本校全体の学習活動の活性化が期待されています。保護者の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

225教室（2棟2F）用エアコン（H29.7.1） 121万円

今年度は、3学年が9クラスあり、エアコンのない225教室も使用することになったため、3学年の他の使用教室との学習環境に差が出ないよう、エアコンを設置しました。なお、以前は、このような場合、レンタルで対応しましたが、設置工事だけでなく撤去工事にも費用がかかることに加え、現在、エアコンがない教室にも、いずれ必要になるだろうと考え、この教室には、撤去せず常置することとしました。



ウッドデッキの撤去（H29.5.28） 5,347円

2棟と4棟の間に設置されたウッドデッキは、生徒の憩いの場として使用されてきましたが、年月の経過とともに腐食が進み、足で踏み抜く危険が生じていました。随時、新しい板を張り替えて修繕を行ってききましたが、土台も痛みがひどくなってきたため、一部を残して撤去することになりました。作業当日は、PTAの役員を中心に、生徒や教職員を含め有志31名により作業を行いました。設置した皆さんの想いを残しつつ、危険な箇所を撤去することができました。何よりも、業者から取った見積もりで50万円と言われていたのが、参加者の皆さんのお茶とノコギリ代のみで済ませることができました。参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



7/8・9

北信越高等学校 PTA連合研究大会



副会長 竹内 公人

表記研究大会が富山県富山市にて、「未来を担う人づくり」をメインテーマに開催されました。本校からは、永原校長先生、井口会長、窪田副会長、竹内の4名が出席。「高校教育とPTA」「進路指導とPTA」「生徒指導とPTA」「家庭生活とPTA」の各分科会にそれぞれ参加、代表校の発表の後質疑応答もあり、理解を深めました。

開会式では「富山県立南砺平高等学校郷土芸能部」による「こきりこ」等五箇山民謡の披露があり、二日目には女優の「室井 滋氏」の講演もあり、他校との交流以外にも様々な刺激を受け、大変意義深い2日間の研修となりました。

これからのPTA

(起) グローバル化 時代の変化が激しい
ほっとくだけではだめだ

いま、猛烈なスピードで世の中が変わっています。わが国では少子化・高齢化が世界に類を見ないスピードで進展し人口減という時代に入ってきています。ライフスタイルも多様化し、商品や企業のライフサイクルも短くなり、うっかりしていると自社や業界自体がなくなってしまうということも起きてきています。ライバルは時代であるという人も出てきています。また、従来の常識が非常識になってしまうといった状況も起きてきています。こうした時代が増収策、収益基調策を目指すのは当然ですがどう対応していったらいいのでしょうか？

生き残る種というのは、最も強いものでもなければ、最も知能の高いものでもない。変わりゆく環境に最も適応できる種が生き残るのである。

ダーウィン (自然科学者)

今やっていることがいつまでも正しく、上手くいくとは限らない。順調に行っている時こそ、次の一手を考えて準備を進めておこう。波乗りをするように環境の変化に柔軟に対応していこう。

【ワンポイントコーチング】

5年後に今の仕事環境はどう変わっていると思いますか？そのために今から準備できることは何ですか。

世界の市場で戦えるグローバル人材の確保は日本の産業界にとって大きな経営課題である。そして多くの経営者はこう嘆く。〈日本の若者は「内向き志向」で草食系、海外に打って出る、という意欲がなくなった。グローバル人材の確保が急務なのに、このままでは日本は危うい。もっと留学生を増やさねば〉。だがそうだろうか。今の若者は今の経営者層よりもずっとグローバルな視点や経験を持ち、決して「内向き」ではない。そうさせているのは日本企業のグローバル経営の遅れである。

(承) 高校大学接続改革 教育方法が大きく変わる
自ら見つけた課題に取り組む「探求的な学び」
(転) 学びの支援
(結) 意識改革が必要

9/9

3学年PTA

入試 (推薦・センター試験他) 説明会

進路指導主事石田先生より入試に関するお話をお聞きました。
〈親の心得〉

- 入試に向けてのスケジュールを把握しておくこと。
- できる限り本人にやらせること (書類を書く、宿泊先の予約など)。
- 今苦しんでいる子どもたち、やっとな一人前の受験生になったね、頑張れ、と見守り、応援してあげること。
- できない教科とは伸びしろがあるということ。

初めて大学受験する子の親として受験のシステムやスケジュールを知るのにとっても貴重な会でした。

親としてどんなサポートが必要で、どう見守ることがよいのかを知ることができました。石田先生には難しいと思っていた入試に関することを、楽しくわかり易くお話していただき、あっという間の1時間半でした。3年の保護者、特にお子さんが初めて大学受験を経験する方には是非、この入試説明会に参加し、概要をつかむことをお勧めします。

8月～11月 地区PTA

今年度も8月から11月にかけて33地区中21地区（実施率68パーセント）において地区PTAが開催されました。以下は清水地区PTAの様子です。

9月3日、本校大会議場にて清水地区PTA懇談会が開催されました。

当日は、永原校長先生をはじめ地区担当の先生、進路指導の先生方にも出席いただきました。清水地区はとても人数が多い為、1年生から3年生の保護者が改めて顔を合わせるよい機会になりました。

生活指導の先生からは大きく3点①自転車事故に関する現状や注意点②校内における盗難の話③スマホに関する現2、3年生へのアンケートに基づく報告でした。

進路指導の先生からは、近年少しずつ変わってきている大学受験の詳しい話がされ、保護者の方もメモをとり真剣に聞いておられました。



各学年毎に分かれての情報交換では3年生は進路、2年生は今年初めて行われる海外研修旅行についてが題材になり、どの学年も予定時間を越える有意義な時間となりました。

同地区の親同士が集まり小さなコミュニティで情報交換する事や、直接先生方から話を伺う事は大切な事だと改めて思いました。保護者の方には今後も積極的に地区PTA懇談会に出席して頂きたいと思いました。

心が震えた

松本県ヶ丘高校 三年

筑地ほたる

私が芸術鑑賞会でピアノジャックの演奏を聴いてまず感じたのは、「心が震えた」ということです。一曲目の演奏が始まった瞬間から鳥肌が立ちました。

私は正直、芸術にはあまりが興味なく、失礼ですが、今回も別に楽しみにしていたわけではありませんでした。ですが、ステージが始まってからは楽しすぎて、あっという間に時間が過ぎてしまいました。



私は今までカホンという楽器を見たことはありましたが、どのような音が出るのかは知りませんでした。一見ただの箱のように見えるものから、まさかあんなにバリエーションのある音程、音質が出るとは、思ってもみませんでした。予想外すぎて、最初は裏にドラムが隠されているのだろうと本気で思いました。また、ピアノの演奏も、自由に楽

しく弾いているのが伝わってきて、聴いている私も楽しくなり、二人の奏でる音に引き込まれていきました。

ステージではたくさん楽しい演出をやってくださり、特に、ねじを巻かないとピアノの演奏が再開されない、というのが、HAYATOさんとHIROさんのチームワークの良さありきの演出だと思い、とても楽しんでみる事ができました。また、ステージ上の照明が、それぞれの曲ごとにその曲を象徴する色が使われていて、固定照明であれほど雰囲気演出できることに驚きました。

演奏していただいた曲の中で、私は「美しく青きドナウ」が一番好きでした。聴きなじみのある曲が、かっこよくアレンジされていて、聴き入ってしまいました。最後に、私はクラス金員のアンケートを集計する係だったのですが、多くの人が、「三年間で一番楽しかった」「ファンになった」「もっと早くに出会いたかった」などの感想を書いていました。私も同感で、とても素晴らしい演奏を聴けて本当によかったです。ぜひまた、ピアノジャックのライブに行きたいと思います。



活躍する縣陵生

音楽部

伝統の小諸高校、撃破！長野県代表に！



音楽部は、第84回NHK全国学校音楽コンールの関東甲信越大会（9月3日埼玉県さいたま市）と、第70回全日本合唱コンールの中部大会（9月23日石川県金沢市）に県代表として出場しました。

全国大会出場常連校が集うハイレベルな大会のステージに立ち演奏できたことは、本当に良い経験となりました。中部大会では銀賞もいただき、3年生にとっては集大成となる舞台で最高の演奏ができたことをとても嬉しく思います。

二つの大きな舞台に立つにあたって、たくさんの方に応援していただきました。本当にありがとうございました。23人の部員全員で、最後まで全力で歌いきたことを誇りに思います。この経験を生かして、縣陵音楽部がさらに技術を磨いて発表し、今後の大会でも活躍することを願っています。（音楽部はいつでも一緒に歌ってくれる部員を募集中です!）

NHKコンクールでの演奏は、Nコン on the web で検索すると視聴できます。（前部長 板橋はるか）



インターナショナル部

3年ぶり3回目の県大会優勝。1位～3位上位独占！



今年度インターナショナル部は3月岐阜県岐阜聖徳大学付属高校で開催された東海春期大会で初優勝を飾り、その後仲南地区大会優勝。むかえた屋代高校で開催された県大会ではAチーム（小澤 真樹、瀬古 啓輔、中野 萌美、遠藤 まどか、甕 陽茉莉）が7戦全勝で優勝、Bチーム（川村 胡桃、鹿崎 さくら、後藤 由夏、小祝あおは、得能 航）は決勝まで無敗の6勝1杯で準優勝、1年生だけで構成したCチーム（鈴木日花里、牧 優花、中村凜、小林すずな、秋元玲音、二木悠美子）は予選1位で通過。Bチームに敗退し3位となりました。

埼玉県東京国際大学で開催された全国高校生英語ディベート大会では縣陵代表チーム（小澤 真樹、瀬古 啓輔、中野 萌美、遠藤 まどか、後藤 由夏、小祝あおは）は予選10ポイント中7ポイントで64校中18位（ポイント順では同率8位）でした。半年以上「日本は今後50年間で1000万人規模の移民を受け入れるべきである」という論題と格闘しました。

12月24・25日東京大学で開催された第3回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会においては、代表チーム（2年H組小澤 真樹、瀬古 啓輔、中野 萌美）が出場64校中5位に入賞しました。

珍事! 史上初!? 雨天中止、第62回強歩大会

10月13日に予定されていた縣陵の伝統行事強歩大会は、前日からの雨のため残念ながら中止となりました。数日前までの、季節が逆戻りした夏のような気候が一転、前日には気温が下がり雨予報となり、短縮コースに変更が決定。当日、冷たい雨の中での強歩を覚悟して登校した生徒たちですが、雨量が多く気温も低いためスタート直前に中止が決定しました。中止になり喜ぶ生徒も残念がる生徒もいたようです。確かな記録は無いのですが、長年縣陵に勤務する先生の話では強歩大会が中止になったのは初めてなのではないかとのこと、珍しい体験となりました。体育館での全校集会の後、各教室に戻りホームルームを行い1年生は体育館でレクリエーション、2年生は修学旅行・海外研修旅行の準備、3年生は自習となり、午後には放課になりました。PTAで用意した果物と飲み物は当日のボランティアの皆さんが全校生徒分用意し、各クラスに配られました。冷たい雨の中準備に来ていただいたPTAの皆様ありがとうございました。1、2年生の皆さん、来年は晴れ渡る秋空の下開催されるといいですね。



吹奏楽部

中部日本吹奏楽コンクール本大会出場!



第60回 中部日本吹奏楽コンクール本大会 2017.10.7 & 8 開催

9月3日の県大会で優勝、本大会出場が決定!もう一度曲を磨き直せる!!嬉しい!という気持ちで、県大会の反省を生かしながら、自信を持って演奏できる力を付けました。10月7日、憧れのアクティビティ浜松のステージに立つことができましたが、決して平坦な道のりではありませんでした。

1、2年生体制になったばかりの私たちにとてその存在は遠く手の届かないものに思えました。部員同士で話し合いを持ち、自分たちの作りたい音楽の確認、そのための方法を具体的に作りました。最初不安でしたが、日々の練習を通してそうした心配も徐々になくなり、部としてのまとまり出てきました。

本大会の成績は出場11団体中5位。部員全員でやれることを尽くし、獲得した成績です。3年生引退から2ヶ月。より質の高い練習、よりよい音楽を目指して大変よい経験を行うことができました。

毎日指導していただいた細田先生、ずっとそばにいてくれた応援メンバー5人、3年生、保護者の方々、たくさんの支えのおかげです。ありがとうございました。

(部長 2年H組 中嶋 沙英)

かるた部

かるた部は長野県高文連主催かるた選手権に出場。出場者10校80人から選出される代表28人に2年小堀実桜さん、岩倉妃菜が選出されそれぞれ、Aチーム、Cチーム代表として第29回北信越高等学校かるた選手権大会(長野市エムウェーブ)に出場しました。5県16チームが参加、Aチーム(代表:小堀実桜 4将さん)が5位、Cチーム(代表:岩倉妃菜 4将)が3位という好成績を残しました。

「ちはやふる」縣陵かるた部 2年連続北信越大会出場

私たちは、昨年に続き二度目の北信越大会に出場しました。他校の選手とチームを組み、県大会の団体戦に出場しました。結果は出場~校中5位でした。個人として、また団体のメンバーとしても悔いの残る部分もありました。しかし、Aチームの仲間と力を合わせて戦い、楽しめました。他校の選手と戦った貴重な経験を残りの部活に生かしていきたいと思います。

(2年B組 小堀 実桜)



9/8

♪ 2017 合唱コン



【受賞クラス】

最優秀賞	3年G組	ほらね、
金賞	3年I組	Some Nights
金賞	3年C組	決意
銀賞	3年A組	群青
銀賞	2年H組	虹
銀賞	3年H組	走る川
銀賞	2年F組	二十億光年の孤独
銅賞	3年B組	春に
銅賞	3年E組	ここから始まる
銅賞	3年D組	一詩人の最後の歌
指揮者賞	3年G組	佐々木 笙
伴奏者	3年D組	栃本みなみ

【受賞者コメント】

●最優秀賞 3年G組【合唱曲「ほらね、」を歌って感じた3Gの魅力】

発表順が決まって決意した。最優秀賞を取る——。練習では目を瞑ったり、手を繋いだり、間奏部分で場所移動をしたり。更に、楽譜のない伴奏、情熱的な魂の舞——否、指揮。他クラスには、さぞ奇々怪々に映ったことだろう。しかし…トリを務めた3Gはパワフルな演奏で皆を魅了し（私的見解）、指揮者賞と最優秀賞を勝ち取った。奇妙に思えることも全力で取り組めるクラスだったからこそその結果だと感じた。『ほらね、』3Gが最優秀賞だったでしょ？

(3年G組 責任者 小林 空)

●金賞 3年I組【金賞わっしょ〜い!!!】

このタイトルのように、初めて賞を得ることができ本当に感動しています。夏休み前には全ての音取りを終えましたが、六部にまで音が分かれるSome nightsを完成させられるのか、尚且つ個性的なI組は意見の衝突等もあり…。それでも私達のが金賞を取れたのは、皆がこの曲が好きだからだと思います。本番は「楽しく歌う」こと。皆それぞれ緊張していましたが、I組の雰囲気、楽しさが伝わったのではないのでしょうか。

(3年I組 根橋 妙恵)

●金賞 3年C組【もしや、低血圧…？笑】

朝に弱く、朝練の出席率がかなり低かったC組。なので、3Cは昼と放課後メインで練習続けました。C組は表面上はクールですが、内に秘める優しさが団結に向かった時の熱量は他に負ける気がしません。そのC組の合唱をまとめあげた人物は指揮を担当した暁彦氏「爽やかな容姿とは裏腹に「今の歌声は腐ったトマト。」など毒を吐くこともしばしば…（笑）そんなC組のみんなと練習を重ね、歌い上げた合唱で金賞がとれて本当にしあわせでした!!

(3年C組 西澤 友乃)

●銀賞 2年H組【緊急速報】

速報です!2年H組が合唱コンクールで銀賞を受賞しました!昨年、銅賞受賞という快挙を遂げたH組ですが、今年は昨年を越えられるかということが一部生徒内で話題となっていました。H組の生徒は本番直前まで不安げな様子でしたが、なぜか笑いに包まれて曲が始まりました。その真相を指揮者のM氏に直撃したところ、M氏は「…熱盛」のみを語り、その場を去っていき、その真意は迷宮入りとなりました。

(2年H組 松岡 みず穂)



クール 月



●指揮者賞コメント

「感情香る濃厚指揮～筋肉を添えて～」 3年G組 佐々木 笙さん



このフランス料理風のタイトルは私の指揮のテーマである。心なしか美味しそうである。「皆が歌に感情を込められる指揮」をやりたいと指揮者に選ばれた瞬間から思っていた。そして、長い時間悩んだ末、己の筋肉を信じることで己の目指す指揮が完成する…と一つの解に辿り着いた。私は筋肉と対話を繰り返し、本番では大脳筋を躍動させ、賞を勝ち取れた。本当に良い思い出である。最後に、そんな私を支えてくれた人達と大腿四頭筋に感謝を申し上げたい。



●伴奏者賞コメント

「伴奏賞を受賞して」 3年D組 栃本みなみさん



高校最後の合唱コンクールで伴奏者賞を頂くことができ本当に嬉しく思います。夏休みにピアノの練習をしているとき、あまりにも弾けていなかったの「どうしよう。難しい…」とずっと考えていました。でも休み明けに3年D組のクラスメイトががんばってうたっている姿を見て、ピアノもがんばれました。ちゃんと歌を支えることができたのかはわからないけど、D組のみんなで1曲作り上げることができて嬉しかったです。



●コメント



11/18

PTA研修旅行

「金沢大学への旅～角間キャンパス～」

11月18日に、生徒、保護者および先生方合わせて66名の参加で、金沢大学へ研修旅行に行き参りました。今回私たちを金沢大学へ導いてくださった矢口直道准教授は、井口PTA会長とは縣陵時代の同級生です。矢口准教授のご厚意で、土曜日にもかかわらず学食まで営業していただき、至れり尽くせりの一日となりました。

バス内では進路指導の石田先生による金沢大学の特色等のお話や参加者の自己紹介等が行われ、意識を高めるひとときを過ごす事ができました。金沢大学紹介VTRも鑑賞しましたが、洗練されたスタイルの校舎や設備の充実さに驚き、これから向かう金沢大学への期待により胸が膨らみました。

バスで角間キャンパスに入ると、大学の敷地内とは思えないほどの広い道路がどこまでも続いています。それもそのはず、金沢大学は全国3位の敷地の広さを誇り、総面積267万㎡、東京ドーム57個分なのだそうです。バスでどんどん上り坂を進み、キャンパスの一番奥のバス停まで到着すると、矢口准教授とともに、案内役を受けてくださった縣陵OBの院生のお二人が私たちを迎えてくれました。「キャンパスの麓では雨でも、ここまで来ると雪になっていることもあるんですよ。」とのこと。広い金沢大学ならではのエピソードです。



矢口准教授と井口会長

始めに人間社会学域人文学類長の岩田礼先生から、大学概要の説明をしていただきました。キャンパス内でイタチやタヌキ、シカに遭遇することもあるらしく、ここでもまた「広い金大あるある」のエピソード登場！「サファリーパークのよう」だとおっしゃっていました。また、金沢大学はSGU（スーパーグローバル大学創成支援）事業の1校として採択されていて、海外の大学で主流のクォーター制（4学期生）を導入したり、学生への海外派遣を積極的に推進したり、グローバルな人材育成に向けて様々な取り組みを行っているそうです。校内の掲示版にも、留学についての情報がたくさん貼ってありました。卒業後は、公務員を目指す学生が多く、今回交流会に参加してくださった卒業生の中にも公務員講座を受講している方がいらっしゃいました。また、理工学域の学生は、3分の2が進学だそうです。学生の半分は北陸出身ですが、北陸新幹線の開業により、長野県や北関東の学生も増えてきているとのことでした。

昼食は、学食で色々好きな物を選んでいただきました。さすが学食、醤油ラーメン一杯345円、かけうどん・そばはなんと172円です。また、プリペイドカードを購入すると「期間限定で100円朝食」という、



学生にとってはありがたいお得企画のお知らせもありました。学食のある建物には小さなスーパーのような生活協同組合のお店や郵便局、美容室まであります。フロアの片隅では3名の学生さんがアカペラの練習をしている姿も見られました。また、オーケストラのサークルでしょうか、ドアの向こうからは素敵なバイオリンの音色も聞こえてきます。学業の他にも、一人一人が夢中になれることを見つけ、金大（金沢大学は、通称金大です。）生活を謳歌している学生さんの姿が、あちらこちらでキラキラ輝くお昼休みでした。

午後からは、3つの教室に分かれてさまざまな専攻の7名の卒業生との交流会がありました。

《金沢大学に決めた理由》



左から、西原さん、奥原さん

- 親が情報系の仕事だったのがきっかけ。金沢大学には情報コースがいろいろあって、雨も降るけど、北陸の落ち着いた雰囲気も気に入った。
- マネージャーをやっていたので、人のためになる仕事をしたかった。オープンキャンパスに行き、金沢大学に決めた。



左から、山口さん、下野さん



《高校時代の勉強方法》

- 定期テストが良くても、模試が悪ければ意味がないとよく言われるが、知識の積み重ねが結果につながる。英語は教科書を活かし、学校の教材をやりこんだ。単語帳のアプリはとても良いのでおすすめ。教科書も発展までやれば2次対策になる。復習をしっかりとるように。
- 部活がしんどくて引退までは勉強が出来なかったが、その後は放課後にMウイングや図書館、学校などで勉強できた。
- 部活は忙しかったが、英単語ターゲットと古文漢文は日頃からやっておいて良かった。
- 苦手な分野を2年生で諦めると、選択が狭まる。難しいと思った時にこそ頑張ろう。
- 引退後も部活をやっていた頃と同じリズムで生活した。(部活に使っていた時間を受験勉強に変えた。) 親に起こしてもらうなど、環境を作ってもらって感謝している。
- 自分で休憩時間を決めて、それを楽しみに頑張った。



左から、渡辺さん、山下さん、竹内さん

《大学生活について》

- 今は授業よりもゼミの論文が大変。
- 一人暮らしは寂しさしかないかと思ったら、楽しさしかない! 適度な

距離感で、両親も遊びに来てくれる。

- 新聞地方欄の校閲のバイトをして、稼いでいます!
- NPOの総合スポーツ施設のボランティアとして、お年寄りや子ども達に指導しています。

目標の金沢大学に合格し、前を向いて生き生きと過ごす卒業生のみなさんからは、この先の夢や希望もどんどん溢れてきていて、私たちもたくさんのお裾分けをいただけたように感じました。自分の考えを胸を張って熱く語る7人の姿に、数年後の自分の姿やお子さんの姿を重ねた方々も多かったことでしょう。

別れ際に卒業生の一人、下野春花さんから、縣陵生にメッセージをいただきました。

「勉強も頑張るって欲しいですけど、卒業後はみんなバラバラになるので、今しかできない友達との時間とか、部活とかに打ち込む時間もちゃんと確保して、頑張るって楽しんで欲しいです。」

雨の降る肌寒い天候ではありましたが、これもまた北陸らしい情景であり、しっとりとした一日を過ごすことが出来ました。帰りのバス停まで私たちに付き添い、手を振り見送ってくれた卒業生の皆さんにとっても、懐かしい空気を感じるひとときであったかもしれません。研修旅行の企画運営にご尽力してくださった研修交流委員会の皆さん、そして先生方、ありがとうございました。

《参加者の感想より》

- 行ってみて、金沢大の事を詳しく知ることができ、大変参考になりました。
- 卒業生の皆さんは、とても意欲的な方が多く、話も上手で為になる話が聞けて、参加して本当によかったと思います。
- 全員が前向きで、元気ですばらしかったです。
- 良い機会でした。特に先輩方のお話が聞けて、子ども達も参考になったと思います。
- 進路指導の話もしていただければ、尚良かったと思います。
- 金沢大学には4時間しかいられなかったけど、有意義で楽しい時間でした。卒業生との交流でも、高校生活での勉強、大学選択、そして現在みなさん元気に大学生活を送っている姿にふれられて、これまた有意義で楽しかったです。
- 母校の現在の姿、縣陵OBOG諸君の元気な姿を見られて楽しい一日でした。
- 雨でキャンパスが見れなくて残念でしたが、交流会で自分のやりたい事に向かって頑張っている先輩達の話が聞けて、子どもにとって良い機会になりました。
- 天気のこともあるので仕方ないが、構内や売店など見たかった。
- とても良い経験になりました。学生の皆さんが、とってもイキイキして見えました。参加できて良かったです。
- 卒業生のお話が聞けて、本人も刺激になった様です。



縣陵史上初の

台湾修学旅行を終えて

2学年主任 桑澤 悟

グローバル社会を生きる生徒たちに異文化体験をさせたい、英語の学習意欲を高めたい、こんな思いで生徒が入学する前年より担任団で企画し計画を進めてきた海外修学旅行。私の知る限り、本校にはこれまで修学旅行の前例がなく、しかも海外とあって計画はすべてが手探りだった。事前準備や学習を重ね、終わってしまえばあっという間の4日間だった。

さて、帰国後の生徒の感想文を見てみた。

台湾は日本から近く、比較的治安のよい国だが、台湾を知る以前に、パスポート取得や空港での出入国の手続き、飛行機搭乗さえ初めての者もあり、生徒にとっていろいろな意味で社会勉強になっていた感がある。

そして台湾では、2日目の故宮博物院や忠烈祠での若い衛兵によるパフォーマンス見学。中でも「千と千尋の…」モデル地といわれる九份散策や、十分での「天燈上げ」は生徒たちに好評で、異文化理解の場となった。

3日目の学校交流では、クラスごとに分かれ台北市内の7つの高級中学（高校）を訪ねた。互いに英語を母国語としないのだが、相手校の生徒の流暢な英語に圧倒されていた。しかし、同世代どうし。すぐに打ち解け、コミュニケーションをとることができた。

また、同日午後のB&Sプログラムでは、クラスが8人の小グループに分かれ、英語を専攻する大学生にそれぞれ台北市内に行きたい場所へ案内してもらった。台北市の雰囲気味わうのに一番のメニューだったようだ。

今回の旅行は、行動できる日が実質2日間と日程的に厳しかった。そんな中、多くの生徒が感想として、これがきっかけで海外への関心が高まった、加えて英語の勉強の必要性を感じた、と書くなど、初の試みである今回の企画は一応の成果があったと考えている。

最後に、海外修学旅行実現に際し、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げる。



台湾修学旅行レポート

台北市



人口250万人、面積は九州くらいの国。バイクがすごく多くて、至る所にありました。自転車に乗る感覚でバイクに乗って感じてました。バイク用のレーンや、バイク屋さんもいっぱいあって、バイク好きにはもってこいの国だと思いました。

天気は雨が心配されていましたが、ほとんど降らず、気温も丁度良くて過ごしやすかったです。

台湾で一番びっくりしたことは、トイレです。トイレトペーパーが流せないとは聞いていましたが、色々不便でした。日本はこのトイレに行ってもそれなりにきれいなのが当たり前に思っていたので、感謝しないといけなかったと思います。

故宮と忠烈祠と私

故宮では、ヒスイの白菜とか肉片とか3代で作った球とか興味深い展示品がたくさんあって、昔の人は繊細で綺麗なものを作る天才だと思いました。現代では、多くのものが機械化され手作業でやることは少なくなってきましたが、このような人にしかできない職人技を人間は伸ばしていくべきだと思う。

そして、私が見たかった〈クマと人〉は特別展示だったため見ることはできませんでした。いつか見たいです。

忠烈祠で私は見事な兵隊の動きに目を奪われました。交代でも1時間じっと人形のように固まる事は私には絶対にできません。台湾の男の凄さを感じました。



人と熊。
見たかったな。

海外研修旅行

2年F組 伊與部莉乃さん

台湾ごはん

おいしい食べ物が多かった台湾。

中でも美味しかったbest3 !!!

第3位 北京ダック

自分で包んで作るのが楽しかったし、鳥の皮も好きなのですごくおいしかった。でも、鳥の皮以外の肉の部分はどうしているのか気になる。

第2位 小籠包

本場の小籠包は日本のものよりアツアツじゃなくて、食べやすかった。肉汁があふれ出で、口の中が幸せだった。次に台湾に行くときも絶対に食べたい。



栄えある第1位 マンゴーカキ氷

いつも家とかで作るやつと違って、ふわふわしていて、口の中で溶けた。もはや、雪を食べているみたいだった。頭がキーンとならなかったような気がする。



学校交流



台湾の生徒はすごく英語がしゃべれた。私は全然話せなくてテンパってしまった。ペアの子が日本語を話せる子だったのでやりやすかった。私も英語だけでなくほかの言語も勉強したいと思った。

交流でタピオカミルクティーを飲んだが、すごくおいしかった。でも、サイズが大きすぎて飲み切れなかった。

台湾の子と友達にもなれたし、また会いに行きたい。

飛行機

初めての飛行機で乗る前は墜落するのではないかとドキドキしたが、パイロットさんの操縦が上手で無事に台湾ー日本を行き来出来てよかった。機内食のパスタは不味いらしいという噂があったので、トライしたが普通においしかった。キャビンアテンダントさんも優しく快適な機内だった。(カーズ クロスロード)を見て、2回も泣いた。ハドソンホーネットというキャラクターのエピソードが特に泣けた。ずっと見たかった映画も見られて大満足だった。



【旅程】

11月22日

松本9:00

→名古屋セントレア

→シーザーメトロ台北 21:30



11月23日

A班 故宮博物館

→小籠包料理

→忠烈祠

→九份

→十分:点燈飛ばし



B班

故宮博物館

→忠烈祠

→小籠包料理

→十分:点燈飛ばし

→九份



11月24日

台北市内校交流

→台北駅

→北京料理

→夜市散策:士林&松山



11月25日

ホテル 8:30→松本駅 20:45



世界に羽ばたく卒業生！

世界に羽ばたく卒業生！



A組 担任 平林 裕子
旅に出よう！

卒業したら、自分が考える最長の時間で、「旅」に出てください！そんな旅ができる希少なチャンスが来るんだよ。お金はなくても、時間はある！



B組 担任 塩原 浩

実りある善い人生を送ってください。

命を大切に、自分の夢や目標に向けて勇気ある一歩を踏み出そう。そして人との出会いを大切にして、他人の痛みのわかる人になってください。



C組 担任 松沢 多恵
虹と星

You can only see a rainbow after the rain.
You can see the stars only in the darkness.
悩んだ分だけ成長します。空を見上げて、これからも歩みを進めてください。



D組 担任 二木 千鶴江

笑う門には福来たる！

幾多の困難も、ユーモアと誠実さで切り抜けていってください。さすれば、道は自ずと拓けます。





E組 担任 中田 貴子
希いよ、届け!

私たちの仕事は、きみたちの願いを叶えることはできない。ただ、祈ることができるだけだ。こんなにも素晴らしい仕事だと教えてくれてありがとう。ずっと希っている。幸せになれ。



F組 担任 巢山 尚人
君らの前途に幸あれ

ようやく始まる夢への第一歩。すでに明確な目標を掲げている者。未だ見つけられない者。それぞれの者にとって、有意義な未来が待っていることを願っています。



G組 担任 丸山 文男
何かを始めるのに遅いということはない

第158回芥川賞に若竹千佐子さんの「おらおらでひとりいぐも」が決まった。「テーマをつかむのに63年という時間が必要だった。小説の神様は待っていてくれた。何かを始めるのに遅いということはない」と述べている。

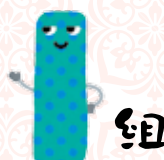


H組 担任 伊藤 道與
一度だけの人生だから

皆さんのこれからには洋々たる前途が開かれています。縣陵で培ってきた精神を糧に大海原に漕ぎ出でて欲しい。自分を大切に! 人を大切に! 身体を大切に! いい人生を!



I組 担任 金井 賢一
Slow and steady wins the race.



人生は、race ではないので勝ち負けは関係し、でも時にはゆっくりと焦らず着実に やっていったらいいと思う。

～縣陵祭スナップ～



編集雑記

(広報担当池上)



松本県ヶ丘高等学校PTA会報 縣陵 133号

発行日●2018年3月1日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社
写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

